

めざそう
密心して隠らせる 必勝かな国師口

Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

編集・発行人 篠田伸夫
発行所
全国仮設安全事業協同組合
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬
15-18
TEL 03-3639-0641
FAX 03-3639-0640
ホームページ <http://www.kasei.co.jp>

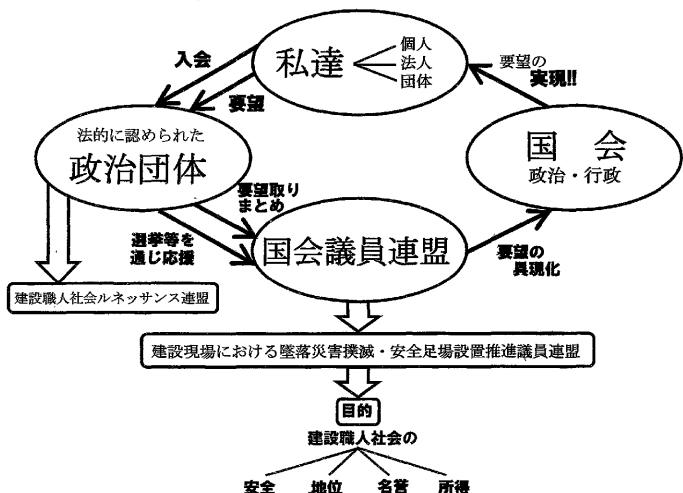
北海道支部	0404-0015	札幌市東区下郷町2-パーク2-14	電話(011)3899-3257	FAX(011)3999-3783
東北支部	T980-0802	仙台市青葉区下町13-22-407(カルピス本店4F)	電話(022)713-0351	
関東支部	T103-0001	東京都中央区日本橋小島町13-18(近都立小島町ビル5F)	電話(03)3639-1751	FAX(03)8839-3860
北関東支部	T590-0823	新潟市中央区中區2-20(日本丸ビル5F)	電話(025)257-0086	FAX(025)357-0086
中部支部	T457-0001	名古屋市東区大塚1-1-1	電話(052)233-0001	FAX(052)233-0001
近畿支部	T550-0006	大阪市東淀川区西中島1-6-8(セメントアーク西淀川005号)	電話(06)8443-5311	FAX(06)8444-5218
中国支部	T338-0016	大阪市西淀川区岸里7-55(船場セメントビル6F)	電話(06)511-2851	FAX(06)827-2750
四国支部	T869-0001	高松市東区東町1-1	電話(087)829-7722	FAX(087)829-7722
九州支部	T811-2101	福岡市東区南門外2-1-1(大日本堂宇治宇治)	電話(092)897-8751	FAX(092)897-8751

東京本部, jp E-Mail: E-mail: kasei@kasei-tanaka.com, jp 各都府県支部の支所へ問い合わせは、各都府県支部までご連絡ください。

国会議員連盟スタート

このたび、私たち建設職人社会に光を当てる目的で、願いをかなえてくれる国会議員連盟「建設現場における落着災害撲滅・安全足場設置推進議員連盟」が設立されました。私たちは、ひまわり連盟に働き掛けをとりまわって、国会議員連盟の目的は、建設職人社会の安全を切り口に、地位・名誉・所得を向上させることにあります。皆様、ぜひ公的な政治団体「建設職人社会ルネッサンス連盟」に入会して、ご要望をお寄せください。入会費は無料です。

私達・建設職人社会の要望を国を動かして実現する正統図



建設職人社会ルネッサンス連盟に入会し、ご要望をお申し出下さい

建設現場で働く事業主及びそのご家族の皆様へ

このたび、建設職人の「安全」確保を第一に、建設職人の「地位」と「名誉」と「所得」を保障することを目的として、「建設現場における墜落災害撲滅、安全足場設置推進議員連盟」を設立いたしました。

今もつて年間墜落事故一万件、そのうち二百人を超える建設職人が死亡しています。

墜落事故の背景には富民格差があります。国の公共工事では、墜落事故防止の決め手である「手すり先行工法」による二段手すりと幅員の設置と十分な知識・経験を有する熟練者によるチェックリットに基づく足場の安全点検が義務化され、遵守されているおかげで墜落事故は皆無に近いのに対し、民間工事では義務化されておらず、墜落事故は野放しの状況にあります。

それは、労災適用等の蚊帳の外に置かれている一人親方問題を含め、十一次下請けまである建設事業の構造など各种原因と考えられます。

私たちが議員連盟は、建設職人社会に光を当てる諸施策を実施し、明るい未来のある間かれた建設産業にすることを目指す目指してまいります。

つきましては、我々の目的に沿った政治団体である「建設職人社会ルネサンス連盟」と共に現場のみなさんの声をお聞きしながら、目的実現のため頑張る決意です。

皆さんのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成二十五年六月吉日

自由民主党

建設現場における墜落災害撲滅・安全足場設置推進議員連盟幹部



**建設現場における落着け災害撲滅、安全
足場設置推進議員連盟発足集いの会**

高村正彦衆議院副議長



先日、小野親方にお会いし、毎年200名ほどの建設現場から墜落事故で死している方が存知です。と質問され、私は「存じ上げませんでしたが」と答えました。申し訳ありません。これは安否対策を実施すれば防げるのです。その認識に、安全対策としてかかりやらない。安否対策がない期間の工事で死者が多い。この安全対策を義務付けていただきたい要望がありました。

国会議員は30年やっています。私が初めて聞きました。上杉さんは知っているはず。そここの問題を知っていた。武見さんは厚生労働副大臣を歴任しましたが、彼も知らないんです。

竹本直人 衆議院議員 私には建設省（現国土交通省）のOBで足場のことはよく知っています。腐敗安全を守るために頑張ります。

原田希治衆議院議員 小野理事長とは大阪で開催されました安全大会で初めてお会いしました。作業服に安全帯の嗜好があるのであればよいとお聞きして、厚生労働局長に話を聞いたところ、知りたがったので、そこで覚悟を持って議員連盟結成しましたら、75名のメンバーが集まりました。これから小野親方と相談をして一生懸命に取り組んでまいりたいと思っています。

上杉弘弘会長



親方の後ろには家がある。なくてはなりません。職人に必要なのは、社会的地位・名誉・所得を確保することです。

この第一に、安全であることが前提です。そのためには建職人社会を実現するために、この議員連盟を結成します。30人未満の無期事業主の一人一人名義を取なければならないという条件があります。

「俺達さっさとやらせてくれんか」という気持ちでいっても、あまりないのが分かります。そのときはお付き合い合ってくださいませ。これからは頑張っていきます。

平沢孝典衆議院議員 私はかつて警察官でした。この落着け災害撲滅は正しい。害の関与は少ない。上杉さんでいい。しかし、これをやっていくなら、おのれを犠牲にするのはどうですか？

第一次安倍内閣で私は厚生労働副大臣を並立していましたが、この間を存じませんでした。だから最初にお断りされた。これは本当に謝罪に社会の大問題です。このことをきちんと多くの国民に理解させるのが議員連盟の仕事です。

この点は簡単に解決できます。官民格差なくせば事故がなくなるので、それがアベノミクス政策さんが安心し仕事ができるために何より大切です。皆様、この国を元気に立て直しましょう。

坂本哲志衆議院議員 私の息子は建築現場の仕事をしています。

私の娘さんと結婚することになった。娘さんをもっと大切にしたい。彼女を助けてあげたい。その御礼で、あなたに、私は左翼でも誇りを保持しています。誇りを保持している者同士に出会うことと言われました。さよなら！！

武見敬三幹事長



その娘さんかあつ。私も左翼屋にという類型から目的の思をすめるために、宮野浩二



います。議員が落着け故で現状についている。ありますが、一世代ごとには三三割増減



動く場所が安いです。桜井義典議員

岩城光太郎衆議院議員 《乾の音》選挙の題名を建設職の皆へ送って欲しい！！

自由民主党
 建設現場における墜落災害撲滅・安全足場設置推進議員連盟
 最高顧問 高村正孝
 顧問 大島理森
 会長 上杉弘弘
 副会長 中曾根弘文
 幹事長 武見敬三
 事務局長 櫻田義孝
 事務局次長 武田良太
 会員名簿五十番順
 【衆議院】
 赤松恒雄氏（東京） 赤澤光正氏（鳥取） 秋元司氏（東京15）
 六見陽一氏（大分） 石破茂夫氏（奈良2） 田中四因
 伊藤信太郎宮城4 伊藤忠茂氏愛知8 高田和親佐賀1
 上杉弘弘氏（中国） うえの賢一郎滋賀2 江藤隆徳（青森）
 衛藤征士郎大分2 遠藤利明山形1 大島理森（青森）
 大塚 拓均愛2 大田英夫東京16 鴨下一郎東京13
 加藤寛裕長崎2 金子忠美新潟4 金田勝年（秋田）
 河村建夫山口3 菅原一郎福島4 若田さち三福島3
 北村建夫山形1 岸信夫山口2 若田文雄（広島）
 工藤彰三愛知4 高村正彦山口1 國澤孝之助沖縄1
 香藤洋明新潟3 坂本剛二（福島） 坂本哲志（熊本）
 松井 実三重3 櫻田義孝（千葉） 九藤 圭大阪2
 塩崎恭久愛媛1 末吉光雄比叺九州1 武井俊輔宮崎1
 竹下 二鳥松2 武田良太福岡11 竹本直一（大隈15）
 田中と徳伸幸川10 各公（兵庫5） 長島忠美新潟6
 中村裕之北陸道4 二階俊博和歌山3 西村明宏宮城3
 野田聖子（岐阜） 野田博之12 坂田雪江大阪9
 平沢勝栄東京17 知田博之（鳥取） 牧島かれん神奈川17
 松島さゆり東京14 務台俊介長野2 武藤孝浩（岐阜）
 山本 拉福井2 吉川貴盛北海道2
 【参議院】
 愛知浩昭（宮城） 赤石清美（比例） 石井準一（千葉） 磯村陽輔（大分）
 足城光夫新潟馬 鴻池祥雲（兵庫） 山東昭子（比例） 武見敬三東京
 塚田一郎新潟 中川雅治東京 中曾根弘文群馬 西田昌司（京
 二之湯智（京都） 牧野たかお静岡 水落敏宏（比例） 吉田博美長岐
 75名（衆議院59名 参議院16名
 平成25年6月5日現在

四

建設職人社会ルネッサンス
連盟のホームページをご覧
いただきまして、ぜひご入会
願います。ホームページか
ら入会申込書がダウンロード
できます。

<http://kenshokusharen.jp/>

A black and white photograph showing a group of approximately 15 men standing in a line in front of a traditional Chinese building. They are all wearing dark, patterned traditional Chinese robes (likely silk or cotton). The man on the far left is wearing a white turban and a white sash. The man next to him is wearing a white turban and a white sash. The man in the center is wearing a white turban and a white sash. The man on the far right is wearing a white turban and a white sash. The building behind them has a tiled roof and a large doorway. The overall scene suggests a formal or ceremonial gathering.

建設職人社会ルネッサンス連盟青年部も議連発足集いの会で
国会議員の先生にエールを送った

[illegible]

個人会員用の入会申込書

FAX: 03-3639-0640 建設職人社会人セナツス連盟 本部 行										法人会員用		
“政治団体” 建設職人社会人セナツス連盟 費問入会申込書												
建設職人社会人セナツス連盟 へ御中												
当会（貴会）は、建設職人社会人を「階級別々別々の会連に作り分けする」とするという目的（※）を目的とする会連に賛同し、「政治団体」建設職人社会人セナツス連盟に入会希望します。												
ご紹介名称		お申込み の住所		〒		代表者		平素 の月		日		
法人名		代表者		姓		名		年		月		
本 社	住所		〒		代表者		姓		名		年	
	TEL		()		FAX		()		()		()	
	e-mail		@		TEL		FAX		TEL		FAX	
ご親戚の方	氏名		住所		代表者		姓		名		年	
	TEL		FAX		TEL		FAX		TEL		FAX	
資料：〇〇地区建設協会誌、〇〇地区建設協会誌												
主な活動団体												
所属する他の会連名をここに記入して下さい												
経理関係												
当会（貴会）の事業について記入する場合は、（経理関係）欄の中に「〇」を記入してください。												
建設職人社会人セナツス連盟（建設職人社会人セナツス連盟）について「〇」に記入してください。												
収 入 内 容 (※収支別)	01		02		03		04		05		06	
	10		11		12		13		14		15	
	16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27	
28		29		30		31		32		33		
34		35		36		37		38		39		
40		41		42		43		44		45		
46		47		48		49		50		51		
(注) 1 入会費及び会費は必要ありません。												
(注) 2 会費は、個人からの寄付金のみで充てられます。ご寄付は自由です。(1日 10円)												
(注) 3 個人からの寄付金は必ずお振込みにて入金させていただきます。お振込みをご希望ください。												
(注) 4 個人からの寄付については個人所得課税に際して「建設職人社会人セナツス連盟」にて還付が受け取れます。												
建設職人社会人セナツス連盟 本部												
〒103-0001 東京都中央区日本橋本町 1-18												
TEL: 03-3639-0600 FAX: 03-3639-0640 E-Mail: info@senakutsusennan.jp												

法人会員用の入会申込書



墜落災害撲滅へ協力

ACCESS 足場協議連幹部と面談

建設職人社会ルネッサンス連盟(小野辰雄会長)は25日、東京・永田町の自民党本部で「建設現場における墜落災害撲滅・安全足場設置推進議員連盟」(足場協議連、上杉弘光会長)と面談した。

面談では、協議連の高村正彦最高顧問が「墜落災害ゼロを目指し、同時に職人の地位と名誉と所得の保障実現に向け、ともに頑張り」と発言。上杉会長は「官民を問わず全現場から墜落災害をなくすため、協議連のメンバーは努力する」と話した。これを受けて小野会長は「われわれの悲願である足場からの墜落災害ゼロを目指し、一致団結して努力する」と決意表明した。

協議連は、手すり先行工法による二段手すりや幅木の設置や第三者による足場点検の義務化を規定する法制度の整備に向けて活動を展開する。

2013年(平成25年) 6月27日(木曜日)

墜落災害撲滅 協議連を表敬訪問

建設職人社会ルネッサンス連盟



建設職人社会ルネッサンス連盟の小野辰雄会長、篠崎隆副会長ら幹部が25日、自由民主党本部で「建設現場における墜落災害撲滅・安全足場設置推進議員連盟」の高村

正彦最高顧問、山東昭子顧問、上杉弘光会長及び櫻田義孝事務局局長と面談した。写真。席上、高村最高顧問は「小野会長より毎年200人の命が現場で奪われているとお聞きし、驚くとともに、是非なんとかしなければならぬ」との思いから上杉会長に相談をして、協議連を立ち上げた」と議員連盟発足の経緯を語った。

また「ここにお集まりのルネッサンス連盟の小野会長はじめ幹部の方々がリーダーとなり、日々、足場からの墜落災害の防止に尽力されていることに敬意を表します。我々協議連と力を合わせ、墜落災害ゼロを目指し、同時に職人の地位と名誉と所得の保障の実現に向けて共に頑張りましょう」とルネッサンス連盟の活動を評価するとともに議員連盟の設立趣旨と目標達成に向けた強い意志を示した。

また、上杉会長は「官民を問わず全現場から墜落災害を無くすため、手すり先行工法による二段手すりや幅木の設置及び十分な知識・経験を有する第三者によるチェックリストに基づく足場の安全点検の義務化に向けて、我々協議連のメンバーは努力していきます」と語った。

日刊建設産業新聞

発行所
日刊建設産業新聞社
本社 東京都板橋区板橋1-48-9
〒173-8710 電話 03(3961)1691(代表)
7971 03(3961)2251
(http://www.kensan-news.com/)
支社
大阪、神奈川、九州、中国、東北、甲信越
支局
埼玉、中部、神戸、岡山
© 日刊建設産業新聞社 2013

力合わせ墜落災害ゼロ目指す

建設職人社会ルネッサンス連盟(小野辰雄会長)は25日、東京・平河町の自民党本部で、「建設現場における墜落災害撲滅・安全足場設置推進議員連盟」の高村正彦最高顧問や上杉弘光会長らと面談した。写真。高村最高顧問は「小野会長から毎年200人の命が現場で奪われていると聞き、なんとかしなければならぬ」との思いから上杉会長に相談をして、協議連を立ち上げた」と議員連盟の設立趣旨と目標達成に向けた強い意志を示した。

職人ルネッサンス連盟
自民・議連幹部と面談



らないとの思いから上杉会長に相談をして、協議連を立ち上げた。幹部の方々がリーダーとなり、日々、足場からの墜落災害の防止に尽力されていることに敬意を表す。協議連と力を合わせ、墜落災害ゼロを目指し、同時に職人の地位と名誉と所得の保障の実現に向けて共に頑張りましょう」と述べた。

上杉会長は「官民を問わず全現場から墜落災害をなくすため、手すり先行工法による二段手すりや幅木の設置、十分な知識・経験を有する第三者によるチェックリストに基づく足場の安全点検の義務化に向けて、協議連のメンバーは努力していく」と語った。

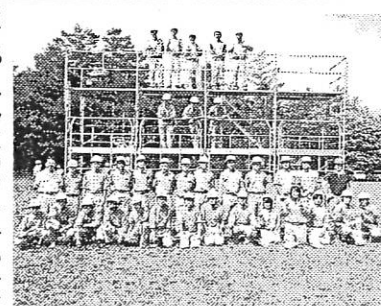
山東昭子顧問は「わたしも女性の立場で建設現場から死亡者をなくすよう全力で努力したい」とし、櫻田義孝事務局局長は「事務局員など幹部21人が出席し、協議連の活動を評価するとともに議員連盟の設立趣旨と目標達成に向けた強い意志を示した」と述べた。

中央工学校

足場の大切さ実感

ACCESS協力で実習

中央工学校は24、25の両日、長野県軽井沢町の同校軽井沢研修所で、全国仮設安全事業協同組合(ACCESS)の協力を得て、2013年度建設現場実習を開いた。同校の約50人に加え、今回は群馬県立中之条高校環境工学科から33人が参加した。写真。24日、立・解体は一人の力ではできない。みんなの力を合わせてこそできるのだと実感した。と話し、野上早紀さんは「将来、造園の仕事をしたい。足



場を初めて持ってみましたが、考えていた以上に重く、足場の上に登ってみると想像以上に高く感じた。だからこそ、安全の大切を実感した」とそれぞれ感想を語った。

同高校の牛木康徳教諭は、「中央工学校や全国仮設安全事業協同組合のようなしっかりとした公的機関と連携したことで充実した実習だった。学生だけではなく、われわれ指導者も得るところが多々あった」と述べた。